



NO.1019
2015・5・17
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三三・四四五八
F 四三三・四四五七



網走市議会人事決まる 議長には、山田庫司郎氏（結政の会） 副議長には、佐々木玲子氏（公明クラブ）

日本共産党の松浦議員は、議長・副議長選挙についての経過について、次のように述べています。

議会構成を前にして、結政の会（旧民主系）が7名、志誠会（自民系）6名、公明クラブ2名が提出されました。これにより、日本共産党の松浦敏司議員だけが1人会派になりました。

議長選挙では、志誠会から議長選挙の協力の申し入れがあり、1人会派について、会派代表者会議、議会運営委員会はオブザーバーとして参加する。決算審査特別委員会は全議員で行うとの内容でした。結政の会からも同様の申し入れがあり、党として検討しました。

議会の申し合わせ事項では1人会派は、会派代表者会議、議会運営委員会、決算審査特別委員会には参加できないことになっているので、その機会が与えられることは歓迎すべきことであることから、議長選挙については議会の顔にふさわしい人物なのか検討して態度を決めることにしました。

議長選挙は、複数の候補がありましたが、最終的に全会一致で山田議員を指名推薦することになりました。

副議長選挙については、佐々木議員が立候補の意思を示し、その中で「1人会派について、会派代表者会議、議会運営委員会、決算審査特別委員会について当然そのようにすべきだと考えていました」と表明したので、共産党として指名推薦に同意しました。

その結果、13日の会派代表者会議で、1人会派についてもオブザーバーとして次回から参加が認められ、議会運営委員会も同様になりました。

松浦議員の所属は、総務・経済常任委員会になりました。また、広報委員会委員長になりました。よろしくお願いします。

いっただ東奔西走

1999年の2月に大江さんの後を継ぐ東奔西走の活動が始まり16年経ちました。今回の執筆で最後となりました。今回、定数削減による厳しい市選の中、私の後継である菊地宏さんには、くらしと福祉を大切に、平和を守る共産党の2議席目を引き継ぐ事が出来なかったことは、私の不徳のいたすところと努力不足で本当に申し訳ない気持ちで一杯です。今後、一市民として、一人の党員として松浦・菊地さんに頂いた1871票の願いに思いを寄せ、バッチは無くともくらしと平和を守る活動に頑張ります。議員16年間へのご支援と叱咤激励、本当にありがとうございました。

菊地ひろし まっしぐら！

5月に入り重要な集会が続きました。3日の「憲法集会」では、「海外で戦争する国づくり」を許さない為に、憲法9条を活かそうと討論しました。10日には原水爆禁止国民平和大行進に参加し、戦後70年の節目の年に、世界で唯一の被爆国の声を生かした運動を進めようと、市内を進行してきました。

私は今、一年半近く休んでいた「木彫りの猫」づくりに入ろうとしています。安倍自公政権のたくらみに平常心を保つことが出来ず、心がぶれてすこし焦っています。一片の木の固まりから、人の心に「いやし」を与えられる木の猫をつくる事などとてもできないのです。安倍自公政権には負けられません。

松浦奮戦メモ

改選後、初めての臨時議会は議長選挙で、志誠会が会派としての意見がまとまらないため、混乱は深まるばかりです。本来なら当事者となった時に、仮の議長を辞めたいの順番の議員に交代すべきなのに、それも拒否するという事態になっていたのです。

ちなみに、次の順番は私でしたが、私が仮の議長をした場合は、協議時間を限定してそれまでにまとまらなければ、選挙をするように進めたと思います。議長選で6時間半も費やしたため他の決めごとが遅れに遅れ、家に着いた夜の12時でした。

流水

母の日は過ぎたが、母の日は近づくと街中にカーネーションが溢れます。もともと母の日は米国の一女性が母の命日に白いカーネーションを捧げたことから始まり、日本では1910年代に文部省傘下の大日本婦人連合会が皇后の誕生日を母の日として国家と家族の母を結び付けた「軍国の母」のイメージを作り上げ、息子を戦争へと駆り出した。そして第二次世界大戦では多くの「軍国の母」は「靖国の母」となつてつらく苦しい戦後を生きた。母に感謝を込めて花を贈るという優しい行事となつていくが、再び「軍国の母」にならず「平和の母」であることを誓いたい。先日久し振りに逢った友人が開口一番「母のことで自分はダメになつてしまえそう」という。母は今100歳近くで、認知症を発症して5、6年なるが症状は進む一方。週3回デイサービスを受けていたが、最近では凶暴な行為と暴言をはき、手に負えなくなり、ショートステイに入れたという。家での介護の実態を聞いたが彼女が真面目で母を想う気持ちが大きいからこそ、苦勞も大きいのだと思えた。施設に入った母は周りに迷惑をかけているだろうけど行つてくれていた間はホッとすると、高齢者の認知症の増加や老々介護の実態、介護施設の不足など弱者へのしわ寄せが今、どつと現れている。最後に彼女が一言「私一回だけ母のお尻を平手でぶつたの！本気で！今でも手の感覚が消えずに残っている、どうしようもないの」（U）